

元・福岡女学院大学教授で豊富な教育経験を持つ牛島達郎先生が、多くの悩みを抱える子ども達や保護者の方々と接するなかで、翔学館の生徒・保護者の為にシリーズでメッセージを書いて下さいます。不登校・子育てなど様々な悩みを持つ方の参考になれば幸いです。

牛島先生は、翔学館でも生徒・保護者の方とのご相談を受けておりますので、相談希望の方は気軽にご連絡ください。



不登校に思う（その1）

私は、長い間、学校教育に携わる中で、多くの不登校の子供や若者と出会いました。そして、相談に応じてきました。その間に元気に登校するようになった人もいれば、私の力不足で、どうしても解決できないで、現在も他の人とのかかわりを拒否している人もいます。

私達大人は、子どものこのような行動(状態)を見聞するとすぐ「不登校は悪い」「不登校も仕方がない」などという価値観で見がちになります。

自分は親として、良かれかしと思い、一生懸命に育ててきたのに「どうしてこのようになったのでしょうか」「どうして私の気持ちがわからないのでしょうか」「私はどのように接したらいいのでしょうか」というような言葉を多くの親から聞きました。

その間に私は、子どもや若者、親と接する中で「子どもも大人も本来は誰一人として悪い人はいません」という考え方もつようになってきました。ただ、その人間関係(親子・夫婦・家庭内・友人など)が、その人を変えただけではないかと思えるようになりました。

子ども達と接する中で子ども達が発した言葉のいくつか書いてみたいと思います。

- ・ 私の言葉や行動に、そっと耳をかたむけてほしかった。 待つてほしかった。
- ・ 親に信頼されないで育った私が、どうして他人を信頼できるの？ できませんよ。
- ・ 親なら、私の苦しい気持ちをわかってほしかった。 そして私を認めてほしかった。 いつも文句を言われた。 つらかった。
- ・ 私の現在の行動は親から見れば、良くないと思うが、どうして私がこのような行動をとるのか、苦しい気持ちをわかってほしかった。 そして、私を認めてほしかった。 何と文句が多かったことか、家に居るのがつらかった。

このような子ども達の声を聞くと心が痛みます。そして十分な手助けができない自分に腹がたちます。しかし翔学館では、川原先生方が一生懸命に子ども達とかかわっています。私もできるだけ応援をしたいと思います。

何かご意見があれば、翔学館にご相談ください。

牛島 達郎

